



Contents

International Symposium in Bangkok

1. Introduction of the Symposium and its Satellite Events
2. Pre-workshop at Hotel Novotel Bangkok on Siam Square Nov. 13, 2016
 - 2-1. Outline
 - 2-2. Development of international Educational Programs
 - 2-3. Possibility of Research and Outreach Activities for Studies on the Connectivity of Hills, Humans and Oceans (CoHHO) through International Cooperation
 - 2-4. Progress of International Research Cooperation
 - 2-5. Cooperation between Industry, Government, and Academia
3. Main Symposium at Mahidol University Nov. 14, 2016
 - 3-1. Outline
 - 3-2. International Collaboration on Research in Global Environmental Studies
 - 3-3. Poster Presentation
 - 3-4. Signing Ceremony of Double Degree Programs
 - 3-5. Special Lectures and Wrap-up comments
 - 3-6. Gala Dinner and Loy Krathong at Sampran Riverside
4. Study Tour Nov. 15, 2016
 - 4-1. Outline
 - 4-2. Study Tour A (Mangrove Forest observation and Royal Project for flood protection)
 - 4-3. Study Tour B (Thai environmental Facilities)
5. Satellite Events
 - 5-1. Kyoto University Alumni Meeting in Bangkok Nov. 12, 2016
 - 5-2. Study at Kyoto University Fair Nov. 14, 2016
 - 5-3. Mahidol GSGES Office Visit Nov. 14, 2016
 - 5-4. Poster Awards Nov. 14, 2016
 - 5-5. Students Short-term Course in Thailand Nov. 11-18, 2016
 - 5-6. Visit to Banaras Hindu University in India Nov. 16, 2016

International Symposium in Bangkok (Nov. 11-19, 2016)

1. Introduction of the Symposium and its Satellite Events

By Shigeo FUJII, professor, GSGES

Kyoto University and Mahidol University organized “International Symposium on Global Environmental Studies Education and Research in Asia” during Nov. 13-14, 2016 for the implementation of two projects of MEXT supporting project “Kyoto University Environmental Innovator Program – Cultivating Environmental Leaders across ASEAN Region” and JSPS Core-to-core program (B) “Construction of global environmental study basis through practical approaches based on the Asia Platform”. Several satellite events also conducted, such as Kyoto University alumni party, Study Fair, and Student Short-term Course. As a result, we had 171 participants from 30 universities and 11 other organizations in 14 countries.

概算要求特別経費（機能強化促進分）「海外サテライト形成によるASEAN横断型環境・社会イノベーター創出事業」（H27-30）およびJSPS研究拠点形成事業（B）「アジアプラットフォームによる地球環境学の実践的展開と学術研究基盤の創成」（H28-30）の合同企画事業として、タイバンコクで2016年11月13～15日の間、国際シンポジウムをマヒドン大学との共同で地球環境学が主催しました。

シンポジウム初日はシンポジウムのプレワークショップとして、Hotel Novotel Bangkok on Siam Squareにて2会場を使い、教育、研究、産官学連携および森里海連環学（後援事業）の4つについて講演・討議を行いました。なお、本ワー

クショップは、第11回のInter-University Workshop on Education and Research Collaboration in the Indochina Regionを兼ねています。2日目は、メインシンポをMahidol大学Salayaキャンパス（バンコク中心から西に30km）で実施し、3日目はStudy Tourを行いました。

本シンポジウムは、上記2事業の共催（主催は、京都大学とMahidol大学）としていますが、その参加者を増やすため、その他の予算に支援を仰ぎました。すなわち、京都大学学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニットからベトナムフェ関連研究者（森里海連環学セッションの実施）、京都大学総長裁量経費「ASEAN環境教育拠点強化事業」でアジア若手研究者、スーパーグローバル大学創成支援「京都大学ジャパングートウェイ」で欧米研修者、農学研究科の京都大学全学経費「インドとの戦略的交流事業実施経費」でインド・バナラシH大学教員、工・都市環境工学専攻全学経費「グローバル環境人材養成事業実施経費」でマラヤ大学、AIT他の学生を、さらにJASSO/SVで地球環境学舎および都市環境工学専攻学生を、招聘あるいは派遣することができました。これらの成果として、京都大学からは教職員研究者43名、学生12名、全体では14カ国、28大学、185名の参加（除く留学フェアのみの参加者）となっています。

加えて、同窓会（11/12）、留学フェア（11/14）、学生短期研修（11/11-18）など、本シンポジウムの機会を利用して、いくつかのサテライト行事を実施しました。



シンポジウム参加者の集合写真

2. Pre-workshop at Hotel Novotel Bangkok on Siam Square

(Nov. 13, 2016)

2-1. Outline

By Ayako Hirata, Project Associate Professor, GSGES

11月13日(日)、「インドシナ地域の教育研究連携に関する大学間ワークショップ」が、「アジア諸国に展開する地球環境学の教育・研究連携に関する国際シンポジウム」のプレ・ワークショップとして開催されました。午前・午後を通じて同時に2つのセッションが行われ、午前の部では、(1)国際協働教育プログラム開発について、(2)

国際連携を通じた森里海連環学研究と実践活動の可能性のセッション、午後の部では(3)国際共同研究の進展、(4)産官学連携の推進のセッションが開かれました。

本ワークショップには翌日開催された「アジア諸国に展開する地球環境学の教育・研究連携に関する国際シンポジウム」参加者のほとんどが参加し、各セッションとも活発な議論、質疑応答が行われました。



歓談する参加者(左)とワークショップの様子(右)

2-2. Development of international Educational Programs (9:30 -12:30)

By Ayako Hirata, Project Associate Professor, GSGES

近年加速するグローバル化社会に対応し、我が国では外国大学との組織的・継続的な教育連携関係の構築を通じて、ダブル・ディグリーをはじめとした国際化教育、教育内容の充実などの取り組みが活発になっています。本セッションでは、前半でダブル・ディグリーを始めとする大学間の国際教育プログラムについて、大学ごとの取り組み事例を紹介し、その後各報告を踏まえ、大学間の国際教育プログラムのデザインと実施について、パネル・ディスカッション、質疑応答を行い、より効果的な教育プログラムの策定と実施について話し合いました。

まず地球環境学堂長舟川教授による開会の挨拶、地球環境学舎の国際教育プログラムについての報告があり、続いて京都大学農学研究科縄田教授より農学研究科のダブル・ディグリーを始めと

する教育プログラムについて報告がありました。続いてマヒドン大学 Suwanna Kitpati Boontanon 准教授よりマヒドン大学と京都大学地球環境学堂とのダブル・ディグリーについての報告、ボゴール農業大学 Ernani Rustiadi 教授によるボゴール農業大学と京都大学農学研究科・地球環境学堂とのダブル・ディグリーについての報告、バラナシヒンドゥー大学 Akhilesh Raghubanshi 教授より同大学の国際化の取組みについての報告、そしてモデナ大学 Paola Bertolini 教授よりエラスムスプログラムといった同大学が取り組んでいるダブル・ディグリーや教育の国際化について報告がありました。その後、5名の報告者を囲み、舟川教授をモデレーターとしてパネルディスカッションが行われ、ダブル・ディグリーといった国際教育プログラムを設立・実施する上での注意点や工夫が話し合われました。質疑応答ではフロアからの質問も多数上がり、非常に活発な議論となりました。



舟川学堂長による報告(左)と質疑応答の様子(右)

2-3. Possibility of Research and Outreach Activities for Studies on the Connectivity of Hills, Humans and Oceans (CoHHO) through International Cooperation (9:30 -12:30)

By Miki Yoshizumi, Project Associate Professor, CoHHO

本セッションでは、ベトナムを中心とした、アジア地域での国際共同研究課題の設定とその進め方について議論を行いました。最初に森里海連環学教育ユニット特定准教授 吉積巳貴より、セッションの目的と森里海連環学研究目的の説明の後、同ユニットの清水夏樹特定准教授から、日本におけるエコツーリズムの概念について、そして平安女学院大学の山本芳華准教授から、奈良における日本茶を活用したグリーンツーリズムの事例について報告されました。そして、ベトナムの研究活動報告として、フエ農林大学の Tran Thanh Duc 講師 (Ngo Tung Duc 講師) から、ベトナムのフエ省ホンハ社におけるエコツーリ

ズムの現状と可能性について、またフエ農林大学の Le Thai Hung 講師から、伝統建築様式であるコミュニティハウスの地域住民による管理システム構築の課題と可能性について、そしてフエ科学大学 Nguyen Ngoc Tung 建築学科副学科長から、フエ省全体におけるエコツーリズムの現況について発表が行われ、最後に Tran Thanh Duc 講師からフエ省沿岸部の魚の大量死問題による沿岸集落の影響についての緊急報告がされました。

質疑応答では活発な意見交換があり、森里海連環学国際共同研究のテーマとして、森里海連環を目的としたエコツーリズムの定義や指標を基にした比較事例調査や、フエ省沿岸域の生態系や水質などの基礎調査の必要性などが認識されました。最後に、地球環境学堂教授、及び同ユニット柴田昌三副ユニット長の総括により、本セッションは終了しました。

2-4. Progress of International Research Cooperation (14:00 -17:00)

By Izuru Saizen, Associate Professor, GSGES

From afternoon on 13th Nov. 2016, the session 3 entitled “Progress of International Research Cooperation” was held to enhance multidisciplinary and collaborative studies over the countries which were needed to solve global environmental issues. To begin with, 8 young researchers presented their own study activities and proposals. Then, 3 ongoing projects which were related to international research collaborations were introduced. Finally, the strategies and actions for realizing the international research collaborations were developed in the discussion parts among attendances.

セッション3では、Progress of International Research Cooperation と題し、地球環境問題の解決には学際的かつ大学や国家間の枠組みを超えた研究者の共同が必要との観点から、今後の共同研究実施に向けた協議を行いました。セッションは前半の若手研究者の研究発表、後半の共同研究に関連するプロジェクト紹介と全体討議によって構成されていました。前半は、地球環境学堂の西前准教授の司会のもと、

若手研究者 8 名の研究報告が行われました。後半は地球環境学堂の柴田教授の司会のもと、東南アジア研究所の高木准教授・JASTIP 拠点ディレクターから国際共同研究支援の役割も担う JASTIP (日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点—持続可能開発研究の推進) の紹介があり、地球環境学堂の西前准教授からは SEEDS Funding による学堂が 4 年前から実施している共同研究推進の試みが説明され、最後にマラヤ大学の Nik 教授からは Asian Core Program による京都大学との長期間の共同研究と教育連携に関して、その取り組み内容が発表されました。その後、意見交換を行い、今後の国際共同研究がますます必要になっていくことが参加者の中での共通認識として確認され、また、そうした共同研究を実施するためには、既に地球環境学堂が確立している連携大学との協力関係を基軸として、京都大学の教員が橋渡しの役割を果たしながら国際共同研究を進めていくことが肝要であり、最も実現性の高い道程となり得ることを確認しました。また、研究対象地域を異としても比較研究ならば、学際的にも関心のあるところであり、直ちに始められるのではないかという具体的提案まで踏み込みました。参加者からは闊達な意見が飛び交い、有意義なセッションとなりました。



セッション3の様子

2-5. Cooperation between Industry, Government, and Academia (14:00 -17:00)

By Kazuyuki Oshita, Associate Professor, GSGES

From afternoon on 13th Nov, 2016, The session entitled “ Toward Business and Research Collaboration in ASEAN Countries” was held. In this session, seven Japanese companies and three Thailand companies made presentations about international business collaboration on Environmental Technology. We discussed many topics in this issue, especially in the roles of Industry, Government and academia.

11月13日に開催されたプレワークショップでは、午後より、“Toward Business and Research Collaboration in ASEAN Countries”と題した環境関連ビジネスに関するセッションが開催されました。本セッションでは、東南アジア諸国でのビジネス、研究の連携を進めている日本企業から、国際連携の例について紹介いただくとともに、現地タイの企業から、環境技術のニーズ、シーズを含め、最新の動向を含めた情報を提供いただき、今後、ASEAN諸国において、産官学での連携をどのように進めていくべきか？経済・技術面だけではなく、大学教育や、人材育成の観点からも議論を行うことを目的としています。

セッションは、前半：廃棄物処理と、後半：エネルギーマネジメント、水処理、エコインダストリーに分けられ、それぞれのセッション座長を、地球環境学堂の大下准教授と、マヒドン大学のTrakarn 助教が務めました。発表は日本側から7企業、タイ側から3企業の事例報告があり、その

内容は以下の通りです。加えてマヒドン大学のTrakarn 助教からも、デンマークの事例を含めた産官学の研究事例の報告がなされました。

- ・ 川崎重工業株式会社：セメント製造と連携した廃棄物処理(CKK システム)
- ・ 日立造船株式会社：国際連携を中心としたWaste to Energy ビジネスの紹介
- ・ 神鋼環境ソリューション株式会社：神鋼環境ソリューションのビジネス活動について
- ・ 新日鐵住金エンジニアリング株式会社：会社紹介と、北九州市との連携について
- ・ 株式会社タクマ：会社紹介と産官学連携に対する考え方について
- ・ TK Greenolution：会社紹介とタイにおける国際リサイクル事業について
- ・ Utility Business Alliance Co., Ltd. (UBA)：タイにおける下水処理場の設計と運転
- ・ THE CREAGY：タイにおけるエネルギーマネジメントコンサルティング事業紹介
- ・ 水道技術経営パートナーズ株式会社：会社紹介と水を中心とした国際コンサルティング事業紹介
- ・ 前澤工業株式会社：タイにおけるビジネスの発展：Amata における浄水事業

各セッションの最後に設けられた Discussion では、途上国における廃棄物焼却システムの経済的な自立性や、国際協働事例としての産・官・学の役割構造、日本企業が現地法人の設立時に、採用する人材に必要な条件などについて、大学や企業が今後果たしていくべき役割も含めて、活発な議論がなされました。本セッションは、次の機会でも積極的に継続していく予定です。



プレワークショップでのディスカッションの様子

3. Main Symposium at Mahidol University (Nov. 14, 2016)

3-1. Outline

By Hirohide Kobayashi, Associate Professor, GSGES

The main symposium was composed of Session 1 of “International Collaboration on Research in Global Environmental Studies” in the morning, and Session 2 of “international Collaboration on Education in Global Environmental Studies” in the afternoon.

In Session 1, the achievements of Pre-workshops held on previous day was reported by each coordinator, and then many young researchers made the oral presentation as well as the poster presentation of their research. Many students also did the poster presentation.

In Session 2, the signing ceremonies of double degree programs were held between Kyoto University and Mahidol University, Kyoto University and Bogor Agricultural University, and Kyoto University and Bandung Institute of Technology. Next the four special speeches of “International collaboration on education and human resources development” were given by the universities and the Japanese embassy. And also some of main guests gave the fruitful comments about the symposium in the closing session.

After the symposium, the participants moved to join the gala dinner, participating in the gift ceremony, the

3-2. International Collaboration on Research in Global Environmental Studies (9:30 -11:30)

By Izuru Saizen, Associate Professor, GSGES

In the morning of the symposium, wrap-up reports on the pre-workshop were introduced by 4 Kyoto University researchers firstly. Then 21 numbers of young researchers from Kyoto University and partnership universities had the presentation about their own research activities and proposal regarding global/regional environmental issues.

午前中のセッション前半は、前日のプレワークショップの総括であり、担当から 10 分ずつ内容

award ceremony of poster presentation.

メインシンポジウムとして、午前中のセッション I は“アジア諸国に展開する地球環境学の研究連携”、また午後のセッション II は“アジア諸国に展開する地球環境学の教育連携”に関する 2 セッションが企画されました。

セッション I では、前日のプレ・ワークショップにおける各セッションの成果が報告され、次に多数の若手研究者による研究発表と、学生を含むポスター発表が実施されました。

セッション II では、まず本シンポジウムの主催であるマヒドン大学と京都大学を代表して、Udon Kachintorn 学長、北野正雄理事より開会の挨拶が述べられました。これに引き続き、ダブルディグリーのプログラム調印式がおこなわれ、マヒドン大学、ボゴール農業大学、バンドン工科大学と協定書調印を取り交わしました。また、特別講演として北野正雄理事をはじめ 4 名の講演者から教育・人材育成における国際連携に関する話題が紹介され、主要参加者からシンポジウムに関するコメント等が披露され閉会となりました。

その後、場所を移し懇親会が開催され、各参加大学へのギフトセレモニー、ポスター賞の授賞式をおこなうと共に、今後の連携推進について活発な議論が交わされました。

がラップアップされました。

後半は、若手研究者 21 名による口頭研究発表が行われました。一人あたりの発表時間が 3 分と限られている中、短時間で非常に良くまとまった研究報告が多くみられました。発表内容は文理を問わず多岐にわたり、地球環境問題を様々な視点から、また様々な観点から捉えられていることが伺われ、若手の発表者間でも貴重な情報共有がなされることとなりました。また、地球環境学堂が実施するプロジェクトと関連する研究報告もみられ、参加者からも強い関心が寄せられていました。

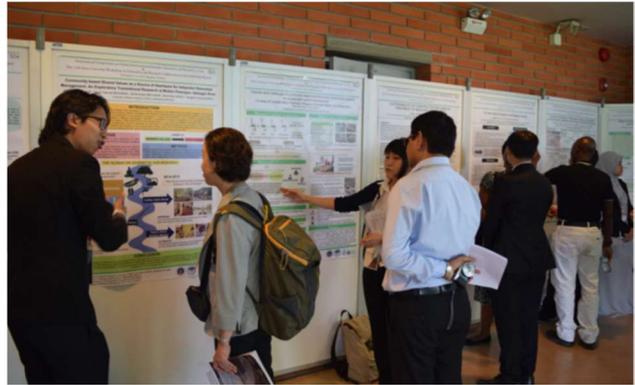
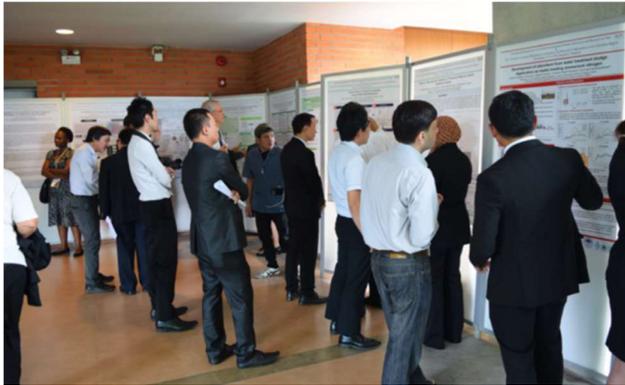
3-3. Poster Presentation (11:30 -12:00)

By Izuru Saizen, Associate Professor, GSGES

In the poster session, poster presentation by 30 young researchers and 27 students were conducted at the venue. In addition, posters about universities, project like EIP, JSPS core-to-core and JGP, private companies were introduced there.

ポスターセッションでは、若手研究者 30 件、学生 27 件のポスターによる研究発表がありました

た。ポスターセッションの時間帯には参加者がポスターの前で発表者との質疑を積極的に行い、その他にも各参加大学の大学紹介、EIP、JSPS core-to-core、JGP 等のプロジェクト紹介、企業紹介のポスターも多数展示され多くの関心を集めていました。このポスター発表では、若手研究者部門、学生部門それぞれに優秀ポスター発表賞を与えることとしており、学生以外の参加者には、優秀なポスターの選考に協力を頂きました。



ポスターセッションの様子

3-4. Signing Ceremony of Double Degree Programs

By Shuhei TANAKA, Associate Professor, GSGES

An agreement to establish a double master's degree program between Mahidol University, Thailand and Kyoto University, Japan was concluded as of 14th November, 2016 in Mahidol University. In addition to it, three program descriptions about double master's degree program were concluded as of same day.

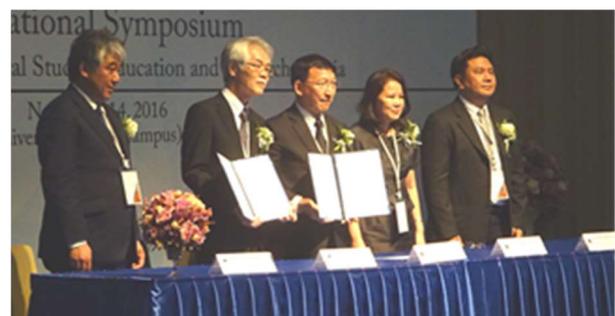
2016年11月14日にタイ王国のマヒドン大学にて、京都大学とマヒドン大学との間での修士課程のダブル・ディグリーに関する協定(Agreement to Establish a Double Master's Degree Program between Mahidol University, Thailand and Kyoto University, Japan)の締結式が行われました。京都大学からは、北野正雄副学長(教育・情報・評価担当理事)、舟川晋也地球環境学学長が出席され、マヒドン大学からは、Udom Kachintorn 学長、Jackrit Suthakorn 工学部長、Patcharee Lertrit 大学院長が出席されました。2017年4月から地球環境学学とマヒドン大学の工学研究科との連携で始まる修士課程プログラムであり、学生は3年間で2種類の修士号(地球環境学と工学)の取得を目指します。

続いて、バンドン工科大学大学院生命科学技術科と京都大学大学院農学研究科との間で修士課程のダブル・ディグリーに関する協定が結ばれ、バンドン工科大からは I Nyoman Pugeg Aryantha

生命科学技術研究科長が出席され、京都大からは宮川恒農学研究科長が出席されました。さらに、ボゴール農業大学と京都大学大学院農学研究科の間でも修士課程のダブル・ディグリーに関する協定が結ばれ、ボゴール農業大からは Agus Purwito 農学研究科長が出席され、京都大からは宮川恒農学研究科長が出席されました。

さらに、ボゴール農業大学と京都大学大学院地球環境学学との間でも修士課程のダブル・ディグリーに関する協定が結ばれ、ボゴール農業大からは Agus Purwito 農学研究科長が出席され、京都大からは舟川晋也地球環境学学長が出席されました。

4大学の間で計4つの修士課程のダブル・ディグリープログラムに関する協定の締結が行われました。近い将来、これらのプログラムを活用して、より多くの学生がアジアの大学で学び、交流し、活躍することを願いたいと思います。



京都大学とマヒドン大学との修士課程のダブル・ディグリーに関する協定締結式の様子

3-5. Special Lectures (International collaboration on education and human resource development) and Wrap-up comments (14:30 – 16:30)

By Hiroshide Kobayashi, Associate Professor, GSGES

The four special lectures were presented by the vice president Prof. Banchong Mahaisavariya of Mahidol University, the executive-vice president Prof. Masao Kitano of Kyoto University, Prof. Christa Fittschen of University Lille, and the first secretary Mr. Keisuke Karaki of Embassy of Japan.

ダブルディグリー調印式に続き、教育・人材育成に関する国際連携に関する4題の特別講演がおこなわれました。

Banchong Mahaisavariya マヒドン大学副学長からは、「To be a World Class University」と題して、現代社会の様々な要請に応える世界レベルの大学へ成長するために、優秀な人材を集め、豊富な資力を有し、強固な支援体制の必要性を示されました。北野正雄京都大学理事からは、「Kyoto University's Challenge towards International Collaboration on Education and Research」と題して、本学の設立以来の教育研究の成果を紹介し、近年のめざましい教育研究の国際化要請に対しても積極的に取り組んでいき、ASEAN地域のダブルディグリー推進を含む今後の

3-6. Gala Dinner and Loy Krathong at Sampran Riverside (18:00 – 20:00)

By Hidenori Harada, Assistant Professor, GSGES

After the symposium on global environmental studies education and research in Asia, the participants joined the Gala Dinner and Loy Krathong festival at Sampran Riverside Hotel. The dinner was opened by the remarks from Prof. Shigeo Fujii, GSGES. Following four professors' comments on the symposium, the participants toasted for further collaboration with the proposal of toast given by Dr. Wasaporn Techapeerapanich, Mahidol University. During the dinner, three young researchers and three students received poster presentation awards; representatives from each university received gifts from Mahidol University and Kyoto University. The dinner was closed by Prof. Jackrit Suthakorn, Mahidol University, and participants further enjoyed Loy Krathong festival, in which participants floated krathong, decorated baskets, on Tha Chin river flowing next to the dinner place.

アジア諸国に展開する地球環境学の教育・研究連携に関するシンポジウムの後には、参加者はサンプランリバーサイドホテルにて懇親会および

国際化の方向性を示されました。Christa Fittschen リール大学化学部リサーチ・ディレクターからは、「Project of Master Double degree in Chemistry between Kyoto and Lille」と題して、リール大学がすでに18大学とダブルディグリープログラムに取り組み、これまで20,000人以上もの受講学生を送り出してきた成果が紹介され、今後京都大学とも研究者・学生交流を進めながら2017~18年の締結を目指していることを示されました。唐木啓介在タイ日本国大使館一等書記官からは、「Japanese Human Resources Development cooperation for ASEAN and Thailand」と題して、2015年の日本ASEANサミットで安倍首相が提言した産業人材資源開発構想を基本として、在タイ日本大使館においてもタイの人的資源開発協力が進行中であることを紹介されました。

その後、JSPS バンコクオフィス山下邦明所長など主要な参加者から、今回のシンポジウム開催の意義や頻繁な研究者交流の必要性などについてコメントをいただき、11月14日のメインシンポジウムは成功裏の内に終了しました。閉会の挨拶は、舟川晋也学堂長と Jackrit Suthakorn 工学部長が担当し、舟川晋也学堂長からは、次年度のシンポジウムがハノイ理工科大学で実施予定であることが紹介されました。

ロイ・クラトーン祭りに参加しました。懇親会は藤井滋穂地球環境学学教授の挨拶で開会しました。4名の海外招聘者からの本シンポジウムに関するコメントに続き、Wasaporn Techapeerapanich マヒドン大学講師の発声の元、今後の参加者の益々の教育研究交流を祈念して乾杯が行われました。懇親会中には、優秀ポスター賞がそれぞれ3名の若手研究者および学生に授与されるとともに、京都大学およびマヒドン大学から参加大学代表に記念品が授与されました。Jackrit Suthakorn マヒドン大学工学部長による閉会の挨拶の後には、参加者により懇親会場横を流れるTha Chin川にて灯籠(Krathong)が流されました。



Gala dinner after the symposium

4. Study Tour (Nov. 15, 2016)

4-1. Outline

By Kazuyuki Oshita, Associate Professor, GSGES

On November 15, Two study tours: course A and B were held. In the Course A, participants visited the mangrove ecology system by long tail boat. Activities included site seeing of local life style along the canal and feeding food for monkey. Then they visited Khlong Lad Pho Gate project (Royal Project for flood protection).

In the course B, participants visited Nong Khaem Waste Water Treatment Plant with anaerobically digested sludge system in Nong Khaem District, Bangkok which is operated by Utility Business Alliance Co. Ltd and Industrial Waste Treatment Center (Hazardous and non-hazardous waste landfills) in Kaeng Khoi District, Saraburi Province

4-2. Study Tour A (Mangrove Forest observation and Royal Project for flood protection)

By Yuki Okamoto, Project Assistant Professor, GSGES

Samutsongkhram 県内の Mae Klong 川河口に位置する Klongkhone マングローブ保全センターにて行われているエコツーリズムの活動(当地におけるエビ養殖の歴史と現在の保全活動の概要説明、近隣で現在行われる貝養殖漁業、マングローブ域に生息するサル、鳥類の観察など)の視察を午前の行程で実施しました。午後の行程では、Chao Phraya 川の氾濫原に設置された Khlong Lad Pho の水門設置事業に関する知見(洪水抑制効果や発電利用などの取り組み等)を得るとともに、現場の見学や近隣のインフラ整備についての視察を行いました。これらの視察を通じて、参加者出身国間での事例比較や各専門分野

which is owned and operated by Better World Green Public Company Limited (BWG).

2016年11月15日には、コースA、およびコースBの2つに分かれて、ともに一日間のスタディツアーが開催されました。

コースAは、バンコク郊外の Samutsongkhram 県のマングローブ保護地帯における自然体験と、水害防止のロイヤルプロジェクトで建設された、Khlong Lad Pho の水門を見学しました。

コースBは、環境関連施設の見学を中心に実施されました。具体的には、バンコク郊外の Nong Khaem 下水処理場とバンコク北部の Saraburi 県にある産業廃棄物の直接埋立地を見学しました。以下にその詳細を示します。

の視点からの多様な質疑応答が活発に行われ、参加者間の交流も促進された有意義な視察となりました。



マングローブ林を視察



Khlong Lad Pho 水門にて

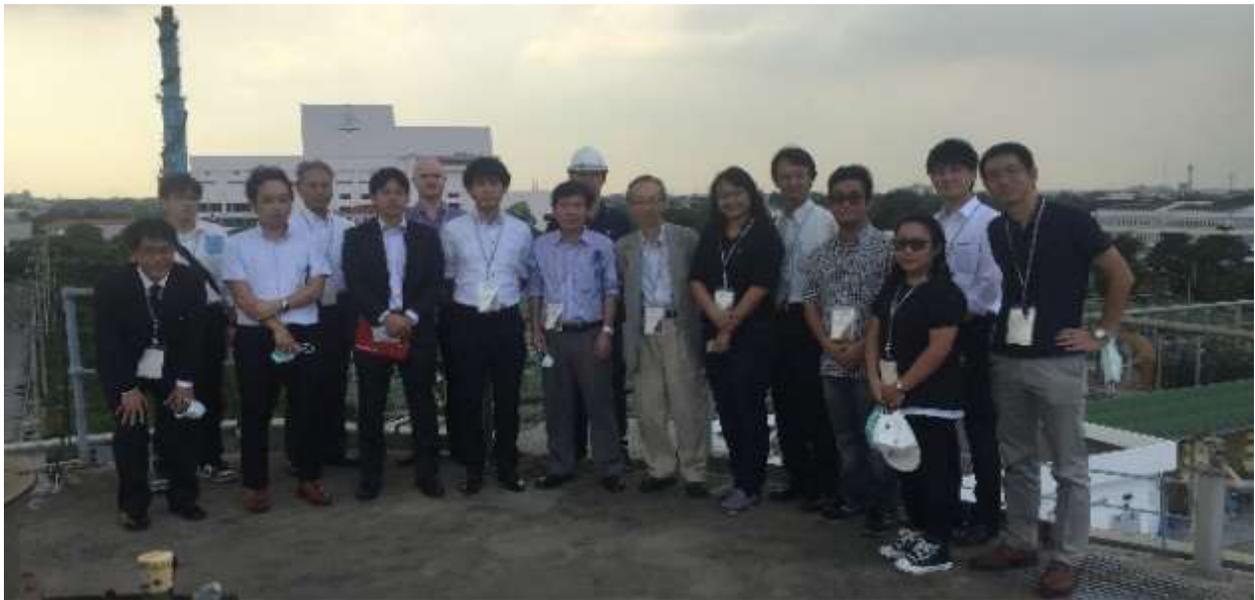
4-3. Study Tour B (Thai environmental Facilities)

By Hideaki Anazawa, research student, GSGES

コースBのスタディツアーは、日本企業からの参加者を中心として計16名が参加し、環境関連施設を中心に見学を実施しました

午前はタイ、バンコク、Nong Khaem 区に拠点を持つ Nong Khaem 下水処理場を訪れました。こちらでは運営主体の Utility Business Alliance Co. Ltd. の代表者から当企業の内容、施設の概要、処理人口規模、下水処理プロセス、管理範囲・方法などの説明があり、施設内にある、それぞれの下水処理設備、放水所の見学を実施しました。そし

て午後はタイ、バンコクの北部、Saraburi 県に拠点を持つ Better World Green Public Company Limited が運営している産業廃棄物の直接埋立地を訪れました。こちらも午前同様に、企業の内容、ごみ埋立地の概要、規模、ごみ選別の工程などの説明を受け、敷地内にある設備、研究所、実験室を見学させていただきました。午前、および午後ともに、見学終了後には Discussion の時間が設けられ、参加者は、タイ独自の運営、作業に関して興味、疑問を持ち、活発な意見交換がなされました。参加者の間の交流もあり、大変有意義なスタディツアーとなりました。



Nong Khaem 下水処理所での集合写真



Better World Green Public Co. Ltd. での企業説明

5. Satellite Events

5-1. Kyoto University Alumni Meeting in Bangkok (Nov. 12, 18:00- 20:00)

By Yuji Suzuki, Project Assistant Professor, GSGES

2016年11月12日に、「アジア諸国に展開する地球環境学の教育・研究連携に関する国際シンポジウム」(11月13-15日)に先駆けて、タイ・バンコクにおける京都大学同窓会(於:ラディソンスイーツ バンコク スクンビット)が開催されました。会場には、日本、インドネシア、カンボジア、コンゴ民主共和国、タイ、フィリピンからの卒業生41名を含む総勢57名が集まりました。現役の日本人学生や海外留学生も参加しており、幅

広い世代が一堂に会する賑やかな場となりました。会は藤井滋穂教授の開会の辞、2005年卒で現マヒドン大学准教授の Suwanna Kitpati Boontanon 氏のタイへの歓迎の挨拶に続き、吉川潔名誉教授の乾杯の挨拶で始まりしました。会場は旧交を温める様子や、新たなネットワークを構築する様子など、京都大学関係者のグローバルかつ活発な雰囲気で包まれていました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、地球環境学堂長の舟川晋也教授の閉会の辞をもって、盛会のうちに終了しました。



乾杯の挨拶をされる吉川潔名誉教授(左)と同窓会出席者の集合写真(右)

5-2. Study at Kyoto University Fair (Nov. 14, 9:30-12:00)

By Miyuki Kawai, International Education and Student Mobility Division

京都はどんな街? 京都大学へ入学する方法は? 日本語ができなくても留学できますか? 留学に係る様々な情報を提供する留学説明会を実施。高校生及び大学生約150名が参加しました。マヒドン大学工学部長、京都大学理事からは、参加者への歓迎の挨拶がありました。大学紹介の

プレゼンテーションでは、古都京都市の魅力、英語で学位取得ができる14のコース紹介、Amgen 奨学金などの奨学金情報、無償の日本語レッスンや在学生「チューター」による生活や学習面のサポートシステム、留学生-日本人-研究者間の交流ラウンジ「きずな」等の紹介を行いました。また、地球環境学舎、農学研究科、工学部地球工学科、工学研究科、医学研究科社会健康医学系専攻、人間・環境学研究科では、教員によるコース案内の後、個別相談に応じました。

5-3. Mahidol GSGES Office Visit (Nov. 14, 16:00 - 16:30)

By Shigeo FUJII, Professor, GSGES

Prof. Masao Kitano, an executive vice-president visited the GSGES Mahidol Office with Prof. Shinya Funakawa, the dean of GSGES, Prof. Hisashi Miyagawa, the dean of GS of Agriculture, and other members after the Symposium was ended on November 14.

大学に地球環境学堂の海外オフィスを開設しましたが、今回、北野正雄理事が Mahidol 大学でのシンポジウムに出席する機会を生かし、そのシンポジウム後、懇親会までの短時間を利用して同オフィスに訪問を頂きました。訪問者は、北野理事に加え、舟川晋也地球環境学堂長、宮川恒農学研究科長、縄田栄治副農学研究科長、藤井滋穂学術教授、田中宏明工学研究科教授ら8名で、クロスアポイント教員の Suwanna Boontanon 准教授(京大では講師)、Wasaporn Techapeeraparnich 土木環境学科主任、Ranjna Jindal 国際 PhD プログラム担当らが出迎えました。従来、京大大学長ら

地球環境学堂は、2016年1月11日にマヒドン

VIP が海外の地球環境学堂の海外オフィスを訪問する際は、他の海外拠点を結んで拠点紹介をするのが常でした（2013年12月20日松本紘前総長のハノイ理工大学訪問、2015年9月29日山極壽一総長のダナン理工大学訪問）が、今回は、

シンポジウム準備等で実施できなかったのは残念でした。本オフィスは、今回のシンポジウム準備やダブルディグリー準備で多に機能しており、その重要性を示す良い機会となりました。



マヒドン地球環境学堂海外オフィス前での集合写真

5-4. Poster Awards (Nov. 14 Evening)

By Izuru Saizen, Associate Professor, GSGES

Best poster awards (3 posters from young researchers and 3 posters from students) were chosen in balloting and recipients of awards were awarded at the Gala Dinner.

研究内容、発表、ポスターデザインなどを考慮し、参加者の投票によって優れたものを評価し、ポスター賞として表彰しました。受賞者は若手研究者から3名、学生から3名の計6名が選ばれ、当日実施された懇親会にて表彰式を行い、マヒドン大学の Jackrit Suthakorn 工学研究科長と舟川学堂長が受賞者に賞状と副賞を贈呈しました。受賞者とタイトルは以下の通りです。

●若手研究者部門
鈴木裕識（京都大学）

Survey on Dietary Exposure of Japanese People to Perfluorinated Compounds and Their Formation Potentials via Consumption of Crop Plants and Fish

Weerawut Chaiwat（マヒドン大学）

Conversion of Petrochemical Hydrocarbon Wastes to Carbon Nanotubes and Its Applications

Yi Tao（清華大学）

Suppression Effects of UV-C Irradiation on the Production of Odorous Compound β -Cyclocitral by *Microcystis aeruginosa*

●学生部門

Affan Nasaruddin（マラヤ大学）

Community-based Shared Values as a Source of Heartware for Integrated Watershed Management: An Exploratory Translational Research at Mukim Pasangan, Selangor River

Jedsada Chuiprasert（マヒドン大学）

Development of Adsorbent from Water Treatment Sludge: Application as Media Treating Ammonium Nitrogen

時任美乃理（京都大学）

Considering the Appropriate Way of Land-Use Diversity Evaluation to Promote Livelihood Resilience in Rural Area of Central Vietnam

5-5. Students Short-term Course in Thailand (Nov. 11-18)

By Koichi Shiwaku, Researcher, GSGES

Students Short-term Course in Thailand was held from 11th to 18th November and 24 students from five universities and institutions including GSGES joined this. They learnt the culture and environmental conditions and discuss them among the students.

平成28年11月11日から18日の8日間、タイ王国にて学生の短期研修を実施しました。参加者は、地球環境学舎5名、京都大学大学院工学研究科環境工学専攻5名、マレーシア・マラヤ大学5名、タイ王国・マヒドン大学5名及びAsian Institute of Technology4名の計24名（日本、マレーシア、タイ王国含む9カ国の学生）でした。それぞれ異なる分野を専門とする学生たちがタイ王国の文化、環境関連の問題点を共有し、自国との相違点や自らの研究の観点から意見を交わし、相互理解を深めました。初日には、地球環境学舎藤井教授による開会の挨拶があり、その後、参加者は5つのグ

ループに分かれ、各自の研究をA3サイズのポスターを使い、研究発表と討議を行いました。研修期間中に開催されたInternational Symposium on Global Environmental Studies Education and Research in Asiaにも出席し、ポスタープレゼンテーションで、シンポジウム参加者に研究の内容を伝えることができました。11月16日にはKoh Larnで、下水処理施設等環境関連施設の視察を行い、実務の現場を学ぶことができました。最終日には、研修中に見つけた環境関連問題について、それを解決するための科学技術及び大学の役割について、各グループがプレゼンテーションを行い、マヒドン大学教員から賞賛のコメントが出るほどの内容であり、準備のためのグループ内での情報共有及び議論が白熱したものであったことが伺えました。今回の参加者の中には、マヒドン大学からの平成27年度及び28年度の地球環境学舎特別聴講学生がおり、旧交を温める機会ともなり、また研修中から参加者がSNSでグループを作り、交流をしています。今回の研修が参加者間、大学間の交流の発展につながることを期待されます。



食文化体験と交流

5-6. Visit to Banaras Hindu University in India (Nov. 16)

By Kazuyuki Oshita, Associate Professor, GSGES

Professor Shinya Funakawa (Dean, GSGES) and Associate Professor Kazuyuki Oshita (GSGES) visited Varanasi City, India on November 16-17, 2016, and discussed the future collaboration on education and research with International center and Institute of Environment & Sustainable Development, Banaras Hindu University (BHU).

タイで開催されたシンポジウムに引き続き、2016年11月16日、舟川地球環境学術長と大下准教授は、インド・バラナシヒन्दゥー大学 (BHU) を訪問しました。BHUは、1916年に設立された国立大学であり、アジアでも最大規模でレジデンシャル・カレッジ・システムという寮制度を採用している大学であり、学生数は約30,000人です。4つのInstitute (機構) と14のFaculty (学部) で構成されており、特にInstituteは、自らの予算、管理、学術機関を有している大学内の独自機関になります。既に京都大学とは2015年の8

月7日に、全学レベルで、大学間学術・学生交流協定が締結されています。

11月16日の午前には、BHUの国際センターにて、センター長の Prof. Hari Bahadur Srivastava (直前のタイでのシンポジウムにも参加) ほか、7名の要職者と、地球環境学術とBHUとの今後の交流について、学術・研究・教育の面から議論が交わされました。引き続き、Institute of Environment & Sustainable Developmentにおいて、機構長の Prof. Akhilesh Singh Raghubanshi (直前のタイでのシンポジウムにも参加) ほか、約10名の教員と、地球環境問題を中心として、今後の地球環境学術とのダブルディグリー制度を含めた交流の可能性について、議論がなされました。当機構は、環境、持続可能性に関するBHUの教員が集まって、1学年約50名程度の学生を教育しており、その特徴は、地球環境学術に非常に類似しています。今回の訪問をきっかけに今後、地球環境学術との国際連携のさらなる強化が期待されます。



(上) BHU 国際センター長 Prof. Hari Bahadur Srivastava から、舟川学術長へ記念品“BHUの記念銅板レリーフ”がプレゼントされた。(下) BHUのInstitute of Environment & Sustainable Developmentにおける意見交換の様子。中央左が舟川学術長、右が機構長の Prof. Akhilesh Singh Raghubanshi

京都大学大学院地球環境学術・地球環境学術・三才学術 広報誌

SANSAI 第16号(特集号)
Newsletter

2017 (平成29) 年3月1日発行

編集●京都大学大学院地球環境学術三才学術
広報部会 SANSAI Newsletter 担当
浅利美鈴・奥村与志弘

発行●京都大学大学院地球環境学術三才学術
TEL: +81-75-753-5630

SANSAI Newsletter is accessible on
GSGES HP.
<http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/activities/publicity/sansai-newsletter/>